

2019年度【広島地区】

登録ALC基幹技能者講習 修了試験
問 題

1. 試験時間：60分
2. 問題数：25問（四択一式：「最も不相当」な選択肢を選ぶ）

一般社団法人 ALC協会

問題 1 登録基幹技能者制度に関して、最も不適当なものはどれか。

- 1 基幹技能者制度（現在は、「登録基幹技能者制度」）は、建設省が平成7年4月に策定した「建設産業政策大綱」において『新しい女性技能者としての「けんせつ小町」』として基幹技能者を重点的に確保育成できるようにすることが求められるようになった。
- 2 基幹技能者制度（現在は、「登録基幹技能者制度」）は、平成8年に専門工事業団体による民間資格としてスタートした。
- 3 平成19年に中央建設業審議会において「法令に基づく制度化を前提に、基幹技能者（現在は、「登録基幹技能者」）を優遇」することが承認された。
- 4 国土交通大臣が登録した機関が実施する登録基幹技能者講習の修了者は、登録基幹技能者として認められ、経営事項審査においても加点評価（3点）の対象となった。

問題 2 登録基幹技能者の仕事の内容に関して、最も不適当なものはどれか。

- 1 現場の状況に応じた施工方法等の提案、調整等を行うことができる。
- 2 現場の作業を効率的に行うための技能者の適切な配置、作業方法、作業手順等の構成を行うことができる。
- 3 生産グループ内の技能者に対する施工に係る指示、指導を行うことができる。
- 4 後工程のみに配慮した他の職長との連絡・調整を行うことができる。

問題 3 建設技能労働者の目標像を示したものに関して、最も不適当なものはどれか。

- 1 将来展望
- 2 適正な評価
- 3 リタイア後の再就職
- 4 処遇改善

問題 4 登録ALC基幹技能者になるための要件に関して、最も不適当なものはどれか。

- 1 作業経験5年以上
- 2 職長経験3年以上
- 3 実務経験10年以上
- 4 エーエルシーパネル施工技能士資格の保有

問題5 元請ゼネコンの登録基幹技能者における優秀職長または優秀職長手当制度に関して、最も不適当なものはどれか。

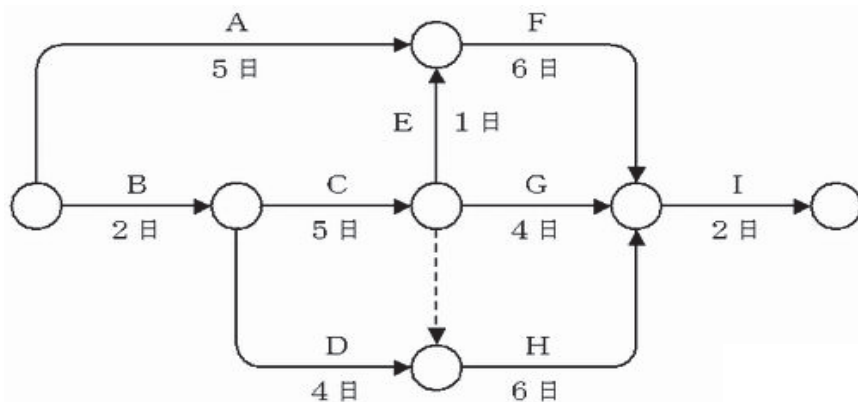
- 1 (一社)日本建設業連合会では、平成26年4月に発表した「建設技能労働者の人材確保・育成に関する提言」の一つとして、「建設技能労働者の体質改善」を掲げている。
- 2 (一社)日本建設業連合会では、「優良技能者認定制度」の普及を推進することとしている。
- 3 「優良技能者認定制度(手当等あり)」を導入しており、このうち「登録基幹技能者」を認定基準としている元請企業は十数社ある。
- 4 登録基幹技能者の資格を取得し、優良技能者認定制度(手当等あり)の認定を受けることにより、年収が数十万増加することが見込まれる。

問題6 OJT教育における指導方法に関して、最も不適当なものはどれか。

- 1 作業を「やらせてみる」前に「教える」ことが優先する。
- 2 やってみせて見習わせることが効果的である。
- 3 経験は成長の原点である。
- 4 技能者の家族が進んで自己啓発に励むように動機づけすることが重要である。

問題7 下図の工程表に関して、最も不適当なものはどれか。

- 1 このプロジェクトの所要日数(工期)は、16日である。
- 2 この工程表は、ネットワーク式工程表である。
- 3 この工程表のクリティカルパスは、B→C→E→F→Iである。
- 4 この工程表における点矢線はアクティビティーであり、作業はない。



問題8 各種労働災害防止対策に関して、最も不適当なものはどれか。

- 1 移動式クレーンのアウトリガーは、最大限に張り出して作業を行う必要がある。
- 2 建築物の解体工事では、石綿による騒音防止対策を講じる必要がある。
- 3 高さ2 m以上の所で足場作業や鉄骨作業などを行う場合、作業床を設置し、これが困難な場合は、落下防止ネットを張り、作業員に安全帯を使用させる必要がある。
- 4 はしごの正しい使い方は、はしごの上端を床から60cm以上突出させ、しっかり固定し、靴底の泥を落とすことなどがある。

問題9 ブレーンストーミング(BS)に関して、最も不適当なものはどれか。

- 1 BSは、自由奔放に発想することから、画期的・独創的なアイデアが誕生することが多い。
- 2 BSは、自由奔放に発想することが良いとされており、常識・経験・理屈はBSと無関係である。
- 3 BSは、他人の意見やアイデアに自分の考え方を便乗させ、応用して組合せたり、便乗すること等を発展させないほうが良い。
- 4 BSのルールは、他人の意見を批判することなく、アイデアを数多く出し、自由奔放に発想することが最も重要とされている。

問題10 建設業法における技術者の配置に関して、最も不適当なものはどれか。

- 1 建設工事の適正な施工を行うためには、建設業者は、実際に施工を行っている建設現場に一定の資格又は経験を有する技術者を配置して、施工の技術上の管理をさせることが必要である。
- 2 下請契約の総額によって、主任技術者と監理技術者の配置が異なってくる。
- 3 主任技術者と監理技術者については、工事を請け負った建設業者と直接的かつ恒常的な雇用関係は必要ない。
- 4 公共性のある施設等に関する重要な建設工事に配置する監理技術者は、工事現場ごとに専任の者でなければならない。

問題11 足場からの墜落防止対策強化に関して、最も不適当なものはどれか。

- 1 高さ2 m以上の構造の足場の組立等の際には、困難な場合を除き、幅40cm以上の作業床を設置する。
- 2 足場の組立て等の作業に従事する労働者に対しては、特別教育が必要となる。
- 3 建設業の元請事業主等の注文者は、足場の組立て等の後は、次の作業を開始する前にその状態を点検し、危険のおそれがあるときは、速やかに修理しなければならない。
- 4 一側足場、つり足場を除く足場の作業床に関する墜落防止措置として、床材と建地との隙間を40cm未満とする。

問題12 施工計画の流れに関して、最も不適当なものはどれか。

- 1 施工計画立案にあたり、まず発注者との契約条件、設計図書などを十分に理解するとともに、現場条件等について調査を行う。
- 2 施工法や施工手順について、品質、工程、安全だけをそれぞれで比較検討し、基本計画を作成する。
- 3 基本計画に従って各工程の施工方法及び施工順序の検討、施工機械の選定、人員配置、作業期間等の決定を行い、施工計画及び詳細工程を作成する。
- 4 施工計画及び詳細工程に基づき、労務・機械・資材の調達計画を立案し、工事費の予算組みを行う。

問題13 施工手順書の活用に関して、最も不適当なものはどれか。

- 1 作成した作業手順書は、関係作業員に周知徹底し、実践させることが重要である。
- 2 作業開始前に「指導及び教育の8原則」と作業手順の重要性について、関係する作業員を十分に教育訓練する。
- 3 作業上、手戻りや不具合が生じた場合にも、当初作成した作業手順書を基に作業を進める。
- 4 作業手順書は、定期的に見直す。

問題14 見積原価の管理に関して、最も不適当なものはどれか。

- 1 見積りでは、諸条件の読み落とし、数量の過小積算等の不備があれば、利益を出すことができない。
- 2 見積りでは、発注者と施工条件等のやりとりの上で合意することが大切である。
- 3 現場条件、工程、数量、リスク等の確認は重要であるが、設計図書や施工図までは確認しなくともよい。
- 4 材料は支給か、取り合い部の施工はどの業者が施工するか、どんな書類の提出があるかなど、原価に直結するので、施工範囲を明確化することは重要である。

問題15 専門工事業者の予算実績管理に関して、最も不適当なものはどれか。

- 1 実行予算と実績を比較して、予定通りに進めることが予算実績管理である。
- 2 現場においては、特に施工量に対する人工数の目標を管理することが原価管理で重要となる。
- 3 原価管理では、契約した工事がスムーズに行くように先を見通して元請と打合せする。
- 4 他の外注業者との調整は、あまり必要はない。

問題16 高い品質に関して、最も不適当なものはどれか。

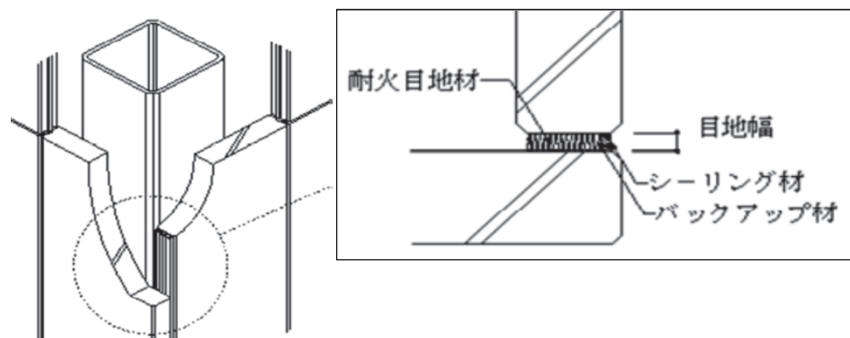
- 1 多くの専門工事業者が分担して施工する建物の品質は、「品質は工程でつくり込む」という考えが重要である。
- 2 最終的な品質の高さは、品質の高い工程を積み上げることで実現できる。
- 3 建設物は社会的な資産として、多くの人々に長期にわたって使用されるものだが、完成時に高い品質を持つだけで十分である。
- 4 発注者を始めとして、建設コンサルタント、設計・監理者、総合工事業者、専門工事業者、材料供給業者間で品質の考え方の共有が必要である。

問題17 品質保証とISO 9001に関して、最も不適当なものはどれか。

- 1 専門工事業者においても、品質マネジメントシステムの国際規格であるISO 9001の認証を受ける企業が多くなっている。
- 2 ISOとは、国際標準化機構のことで、製品やサービス等の国際的な規格の標準化によって、国際的な経済活動の活性化を目指している。
- 3 ISO 9001は、製品の品質を担保、保証するシステムを事前に文書化して、それに対して自社内で認証を受け、それを消費者に開示する仕組みである。
- 4 登録基幹技能者には、ISO 9001に関する文書の作成やそれを使いこなす知識も求められている。

問題18 ALCパネルの出隅部の伸縮目地の幅に関して、最も不適当なものはどれか。

- 1 5 mm
- 2 10 mm
- 3 15 mm
- 4 20 mm



問題19 ALCパネルの加工に関して、最も不適当なものはどれか。

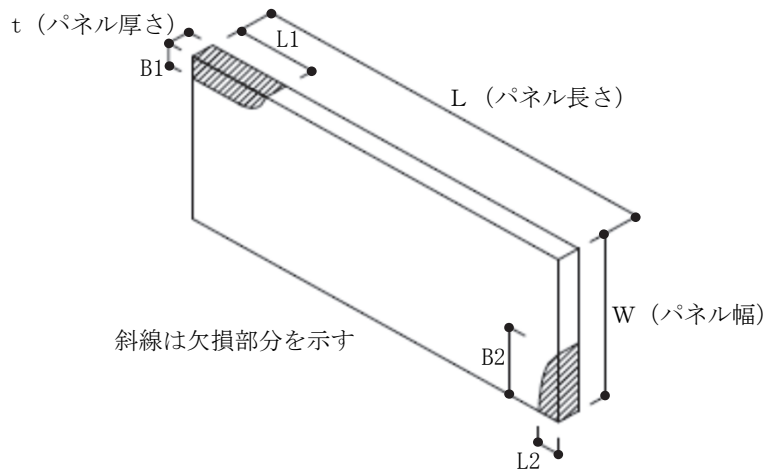
- 1 外壁用ALCパネル及び間仕切壁用ALCパネルへの溝掘りは、パネル1枚あたり3本、かつ幅30mm以下、深さ10mm以下である。
- 2 外壁用ALCパネル及び間仕切壁用ALCパネルへの孔あけは、パネル幅の1/6以下の範囲で、かつ主筋を切断しない範囲に限られている。
- 3 屋根用ALCパネル及び床用ALCパネルへの溝掘りは、不可である。
- 4 屋根用ALCパネル及び床用ALCパネルへの孔あけは、直径50mm以下で、かつ主筋を切断しない範囲に限られている。

問題20 ALCパネルの取付け構法に関して、最も不適当なものはどれか。

- 1 縦壁ロックング構法において、パネルが積層となる一般部では、メジプレートを設置する。
- 2 縦壁ロックング構法において、コンクリート立上り部では、パネル幅中央部にRスペーサーを設置する。
- 3 横壁アンカー構法において、最頂部などでフックボルトを用いて取付けを行う場合、フックボルトの位置は、パネル短辺小口より 30mm程度とする。
- 4 横壁アンカー構法においては、自重受け金物を3～5段ごとに設ける。

問題21 ALCパネル工事において、受入検査時に補修して使用できる欠損箇所の大きさの範囲に関して、最も不適当なものはどれか。

- 1 $B1 \leq 80\text{mm}$
- 2 $L1 \leq 300\text{mm}$
- 3 $B2 \leq W/2$
- 4 $L2 \leq 100\text{mm}$



問題22 ALCパネル工事で使用する電動工具類及び電源等に関して、最も不適当なものはどれか。

- 1 電動工具類には、溶接機、鋼材カッター、ALCカッター、電動ドリル、電動ウインチなどがある。
- 2 専門工事業者1班当たりに必要な電力は、3相 200V 30kVA以上（100V電源も必要）が一般的である。
- 3 木造建物のALCパネル工事に、100V電源は必要である。
- 4 施工者は、専門工事業者が電動工具類を持ち込む際に安全点検をして、確認したものであれば、許可書を交付しなくてもよい。

問題23 「平成12年建設省告示第1399号 耐火構造の構造方法を定める件」における、ALCパネルの耐火性能に関して、最も不適当なものはどれか。

- 1 非耐力壁の外壁の1時間の耐火性能を有する構造として、パネル厚さ35mm以上が告示仕様として定められている。
- 2 非耐力壁の間仕切壁の1時間の耐火性能を有する構造として、パネル厚さ75mm以上が告示仕様として定められている。
- 3 屋根の30分間の耐火性能を有する構造として、ALCパネルが告示仕様として定められている。
- 4 床の1時間の耐火性能を有する構造として、パネル厚さ100mm以上が告示仕様として定められている。

問題24 鉄骨造における一般ALCパネルの最大支点間距離とはね出し部の最大長さの組み合わせに関して、最も不適当なものはどれか。

	パネルの種類	最大支点間距離	はね出し部の最大長さ
1	外壁用（平パネル）	パネル厚さの35倍	パネル厚さの3倍
2	外壁用（意匠パネル）	パネル有効厚さの35倍	パネル有効厚さの6倍
3	屋根用	パネル厚さの30倍	パネル厚さの3倍
4	床用	パネル厚さの25倍	（はね出し不可）

問題25 ALCパネル工事に用いる溶接棒に関して、最も不適当なものはどれか。

- 1 溶接棒は、JIS Z 3211に適合するものを用いる。
- 2 溶接棒は、一般的にはイルミナイト系やライムチタニア系が用いられる。
- 3 溶接棒は、湿気を吸収しないように保管する。
- 4 被覆剤がはく脱していても、心線にさびが生じていなければ使用することができる。